

全国水平社 - 西光万吉の生きざまに学ぶ -

1 目標

- (1) 西光万吉の生きざまを通して、部落差別の厳しさを知るとともに、自らの立ち上がりと団結の大切さに気づく。
- (2) 水平社宣言を通して、水平社に集ったの人々の思想・生き方について学ぶとともに宣言の歴史的意義について理解する。
- (3) 西光万吉の生き方、水平社宣言の精神などの学習を振り返り、自分たちや自分自身の生き方を考える。

2 学習計画 全3時間

- (1) 西光万吉の生きざまに学ぶ。(1時間)
- (2) 水平社宣言に学ぶ。(1時間)
- (3) 自分たちや自分自身の生き方を考える。(1時間)

3 展開

- (1) 西光万吉の生きざまに学ぶ

主な学習活動	留意点
1 西光万吉らの写真を見て、どのようなことに関わった人々か想像してみる。	資料1 全国水平社の創立に努力した人たち (P79) 創設者たちの写真を見せ、どのようなことをした人々か考えさせる。
2 年表を見て、西光万吉の生きざまについて考える。 (1)西光はどのような少年時代を過ごしたのか。 (2)西光はなぜ東京へ上京したのか。	資料2 西光万吉の生涯 年表 (P79) 被差別部落に生まれた西光は、厳しい差別から逃げようとしていたことを知る。 しかしながら、逃げられなかったことを確認する。
3 西光らが、水平社をつくろうとしたのはなぜか考える。 ・グループの代表が発表する。	グループで意見を出し合い発表する。 (意見が出にくければ、ポストイットカードに書かせてもよい) 生徒の発表を受けてまとめる。 ・差別から逃げるより、差別をなくすための取り組みをしなければならないことに気づいた。 ・同情融和的な運動ではなく、自らが立ち上がることの必要性に気づいた。 ・仲間とともに団結することの大切さに気づいた。
4 全国水平社創立大会を迎えた被差別部落の人々の気持ちを考える。	資料3 全国水平社創立大会の思い出(P80)

資料1 全国水平社の創立に努力した人たち



水平社博物館所蔵

資料2 西光万吉の生涯 年表

1895 (明治28)年	奈良県南葛城(かたぎ)郡掖上(のちミ)村柏原の西光寺に生まれる。
1901 (明治34)年	掖上村立尋常小学校に入学、初めて部落差別を体験する。
1905 (明治38)年	御所(ごせ)高等小学校に入学。
1909 (明治42)年	奈良県立畝傍(うら)中学校 (現畝傍高校) 入学。
1910 (明治43)年	畝傍中学校中途退学。
1911 (明治44)年	京都市平安中学校 (現平安学園高校) に編入学。
1912 (明治45)年	夏、京都市平安中学校退学。
1913 (大正 2)年	東京の日本美術院で日本画の指導を受ける。 国民美術展覧会で入賞。
1914 (大正 3)年	二科展で入選。
1916 (大正 5)年	絵の恩師の娘との縁談話があったが、避けるために画塾から遠ざかり、上野図書館で独学を始める。同郷の阪本清一郎と共同生活を始める。
1917 (大正 6)年	ロシア革命によりソビエト社会主義政権成立。 病気のため阪本清一郎に連れられ奈良に帰郷。
1918 (大正 7)年	シベリア出兵、米騒動の発生、阪本清一郎らと「柏原青年共和団」を結成しセレベス島への移民計画を立てる。
1919 (大正 8)年	「燕(つば)会」の結成。
1921 (大正10)年	佐野学の「特殊部落民解放論」を読み、上京し佐野に会う。帰京後、阪本清一郎・駒井喜作他と一緒に水平社創立準備。「よき日のために」のパンフレット作成。
1922 (大正11)年	2月21日に大日本平等会発会式で、水平社創立への参加を呼びかける。 3月3日京都市岡崎公会堂で全国水平社創立大会を開催。水平社宣言が発表される。

資料3 全国水平社創立大会の思い出

栗須 あの大い岡崎公会堂は、全国から集まってきた人でいっぱいやったんです。同じ差別に苦しんでいる兄弟がこんなに大ぜいいるんだと思うと胸があつくなって……(中略)。

(略) 駒井喜作さんが宣言を朗読されたんですが、「全国に散在するわが特殊部落民よ団結せよ長い間いじめられてきた兄弟よ」と読まれたとき、私の胸がこみ上げてきて涙が止まらないんです。隣の人も泣いているんです。読んでいる駒井君も、途中で何べんも絶句するんです。読み終わってからもお降壇するのを忘れてあの人の男が茫然として立っているんです。

阪本 私もそのとき壇上にいたんですが、涙がとまらないのでかっこうが悪いから下へ降りたんですが、あちらでもこちらでも、みんな抱きあって泣いているんです。私はみんなの中へは行って、泣いている人の手を握って涙ながらに、「団結するんです」といったら、「そうや団結や」といって私に抱きついて放さないんです。あのときの感激っていうたら、どういってよいか言葉では現せません。

(栗須：栗須喜一郎 阪本：阪本清一郎)
「荊冠の友」 1967 第8・9号

トピック：少年代表山田孝野次郎の演説 - 栗須喜一郎談 -

三尺足らずの山田少年が「学校卒業の謝恩会するとき私は先生に恨みこそあれ恩はない」といって、差別のかずかずを訴えているうちに声が出なくなった。そのとき場内一ぱいにすすり泣く声ばかりでした。しばらくすると少年は大声を張りあげ、「私たちは泣いているときではありません。大人も子供もみんな団結して、差別のない社会をつくるために闘いましょう」と言ったので、ほんとに感激して涙ながらで大拍手を送りました。

「荊冠の友」1967 第8・9号



演説する山田少年(解放出版社提供)

演説する山田少年(解放出版社提供)

(2) 水平社宣言に学ぶ

主な学習活動	留意点
<p>1 「全国水平社創立の地」記念碑の写真を見る。前時の復習をする。</p> <p>2 水平社宣言を読み、宣言文を自分たちの言葉で表す。</p> <p>3 宣言文のなかで、最も印象に残った部分に線を引き、印象に残った理由も含めて発表する。</p>	<p>資料4 「全国水平社創立の地」記念碑 (P81) 自らの立ち上がりと、仲間の団結により水平社は創立されたことをふりかえる。</p> <p>資料5 水平社宣言(P32) 各班で辞書を使ったり、話し合いをしながら作業をする。 発表を聞くように促す。</p> <p>線を引いた所について考えさせる。 ・熱とは・・・情熱、ぬくもり、あたたかさ ・光とは・・・希望、解放、平等、未来 「差別されてきたからこそ、人間の尊さを知り、差別の痛みがわかるのである。差別されてきた身分であることを恥じず、恐れずに生きていこう。」という強い決意に満ちあふれていることに気づく。</p>

資料4 「全国水平社創立の地」記念碑



「全国水平社創立の地」記念碑（京都会館）

(3) 自分たちや自分自身の生き方を考える。

主な学習活動	留意点
<p>1 西光万吉の学習をふりかえる。</p> <p>2 自分たちが生きていく上で大切だと思ったことを3つ、カードに書いてみる。 ・なかま・勇気・団結・真実・まとまり ・差別を許さない・差別をしないなど</p> <p>3 班で意見を交換してみよう</p> <p>4 自分のカードと下のカードを合わせ、その中から5枚を選び、自分にとって大切なものをランキングしてみる。 ・心の痛みを知っているから人の暖かさを大切にできる。 ・みんなが心をつなげて、力を合わせる事が大切だ。 ・自分から立ち上がることが大切だ。 ・みんなが「平等」に生きていく権利をもっている。 ・「人間」は尊敬されるべきだ。 ・誇りを持って生きることが大切だ。 ・人間の社会は温かいものでありたい。 ・夢や希望を失わないで生きていくことが大切だ。</p> <p>5 班の中でそれぞれ、自分のランキングがどうしてそうだったかを各自が説明してみる。</p> <p>6 気づいたことや分かったこと、これからしていきたいことなどを出し合う。</p>	<p>学習の最初にアンケートを取っていれば、生徒の意識の変容を知ることができる。</p> <p>班内で理由をつけながら意見交換する。</p> <p>班で意見を交流する。</p> <p>班でまとめたり、学級でまとめたりしてもよい。</p> <p>これからどのような生き方をしていくのかを感想文として書かせてみる。</p>



水平社宣言記念碑（御所市柏原）